

ひきこもり支援に 「社会関係構築を」

春日井で市民講座

中高年となったひきこもりの子の生活を高齢の親が支える「8050問題」に

理解を深める市民講座が二十七日、春日井市鷹来町一の総合保健医療センターで開かれ、市民ら百四人が聴講した。

市が開く市民健康づくり講座の一環。ひきこもり問題を研究している愛知教育



ひきこもりの要因について説明する川北准教授も＝春日井市鷹来町1で

大(刈谷市)の川北稔准教授(四)が講師を務めた。

川北准教授は「あいさつや、何げないことでも褒める、仕事以外の選択肢を提示するなどひきこもり本人の心のエネルギーを蓄えることになる」と説明した。また、ひきこもりを責められることで家族が周りに相談できずに社会から孤立し、結果として支援が遅れたり亡くなったまま発見されないなどの事例を挙げ、「ひきこもりの解消だけが問題の解決ではなく、見守りや社会関係の構築といった地域のつながりが必要」と強調した。